

# 市政に臨む基本方針

第24回市議会定例会で岩倉市長は、5期目の市政運営にあたり「市政に臨む基本方針」として、所信の一端を表明しました。

## はじめに

市長就任時から、最重点課題として掲げた財政の健全化につきましては、これまで16年間に渡り、民間活力の活用をはじめとした行政改革に取り組んだ結果、一時期の危機的な状況から健全性が確保される状態にまで、改善しているところです。

5期目におきましては、行政改革の継続はもとより、税外収入の積極的な確保や新たな財政運営計画を策定するなど、財政秩序を守りつつ、財政基盤の更なる強化を図ってまいります。

市民の皆様長い間ご心配をおかけしております旧サンプラザビルを含む苦小牧駅前再開発の問題につきましては、1日も早い解決に向けて全力で取り組み、苦小牧駅を中心としたまちなかの再生に道筋をつけてまいります。

また、地球温暖化に起因する気候変動や自然災害への対応としてのゼロカーボンシティの実現、パートナーシップ

制度の導入など、社会情勢の変化に対応した施策を展開してまいります。

新型コロナウイルス感染症対策につきましては、“感染拡大防止”“地域経済対策”“市民の健やかな日常”を重点軸として各種施策を行ってまいりました。引き続き、この3つの重点軸のもと、感染状況に応じたスピード感のある取組により、市民生活に支障が生じないよう、最優先で取り組んでまいります。

本市が20年先も発展を続け、市民の皆様が安心して日常生活を送ることができるよう、各種施策を推進してまいります。



いわくら ひろふみ  
苦小牧市長 岩倉 博文

市民の皆さんと約束した公約に基づき、4年間で取り組む基本政策についてお知らせします

## 基本政策

### Ⅱ

産業流通の活性化、働く人の  
明るい笑顔あふれるまち  
苦小牧 導きます!

#### ▶ 産業が集積する利点をいかし、人や投資を呼び込みます

旧サンプラザビルの対応につきましては、地権者の理解を得ながら解決に向けて取り組みます。また、新たに「駅周辺ビジョン」を策定し、まちなかの価値の向上に取り組みます。

#### ▶ 20年先を見据えたまちづくりに取り組みます

統合型リゾート(IR)につきましては、引き続き誘致にチャレンジします。また、市内商店街のにぎわいを創出するほか、コロナ禍で落ち込んだ市内経済の再生を図ります。

#### ▶ 人流の活性化と物流機能の強化を図ります

航空機とフェリーを活用した新たな観光需要の掘り起こしや、市街地へのアクセス強化に取り組みます。また、ロジスティクス機能の強化や、小口混載コンテナ輸送の支援を行い、農水産物の輸出拡大を図ります。

#### ▶ とまこまいの魅力を上向き、地元愛を育てます

レッドイーグルス北海道との連携や苦小牧中央インターチェンジを活用した誘客促進など、本市の魅力発信を強化します。

#### ▶ 誰もが働きやすい環境づくりの取組を強化します

介護職員育成支援を拡充し、介護・福祉人材の確保、離職防止を図るほか、市内企業への就職者を対象に奨学金の返還を支援する仕組みを構築し、人材流出の抑制に努めます。また、女性や若者の社会参加の拡大を図り、多様化する社会の変化に対応します。

## 基本政策

### Ⅰ

行革を進め、無駄のない  
効率的な都市機能をもつまち  
苦小牧 築きます!

#### ▶ 時代の変化を捉え、持続可能な行財政運営を行います

時代の変化を踏まえた新たな行政改革計画を策定し、持続可能な行財政運営を目指します。また、新たな財政運営計画を策定し、更なる財政の健全性を確保します。

#### ▶ 迅速に対応する柔軟な組織編成に取り組みます

柔軟な組織体制を整備するとともに、民間人材の登用、女性管理職の割合の引き上げなどにより、高度化・複雑化する行政課題に対応します。

#### ▶ デジタル技術を活用し、市民の利便性向上を図ります

「スマートシティ構想」を策定し、デジタル技術の活用により地域課題を解決するとともに、行政サービスの拡大を図ります。また、地域BWA\*1の利活用を促進し、市民の利便性向上を図ります。

#### ▶ 民間活力導入や広域連携を進めます

JFERサイクルプラザへの指定管理者制度の導入を図るほか、浄水場の運転管理業務について民間活力の活用等により、効率化を目指します。また、下水汚泥・屎処理や消防指令業務などの広域化・共同化について、施設更新費用の抑制や業務の効率化を図ります。

#### ▶ 公有財産の有効活用に取り組みます

本庁舎内一部の休日開放や学校の空き教室の利用など、地域ニーズを踏まえた公有財産の有効活用に取り組みます。